

幸せを感じ、暮らし続けたいと思うまち常陸太田

特集1

後期基本計画による 新しいまちづくりがスタート!

～常陸太田市第6次総合計画後期基本計画～



特集2

ひと・まちを動かすチカラ 地域おこし協力隊

- 新型コロナワクチン接種関連情報 … P12
- 市からのお知らせ … P19



広報
ひたちおおたが
WEBでも読める





幸せを感じ、暮らし続けたいと思うまち常陸太田



《特集1》後期基本計画による 新しいまちづくりがスタート!

～常陸太田市第6次総合計画後期基本計画～

◆問：企画課企画係（内線311）

総合計画は5年ごとに計画される市の中・長期的まちづくりの方向性を示す指針です。市では平成28年に「常陸太田市第6次総合計画」を策定し、「幸せを感じ、暮らし続けたいと思うまち常陸太田」子育て上手その先へさらなる魅力の創造」の実現に向け、平成29年度から「前期基本計画（平成29年度～令和3年度）」に掲げた各種施策を進めてきました。

前期計画期間は今年度で終了。基本構想に掲げた基本方針のもと、今後5年間に、市民の皆さんとともに取組む施策について示す「常陸太田市第6次総合計画後期基本計画」が昨年の12月市議会定例会で可決されました。

前期基本計画の5年間では「暮らしやすく楽しむことのできるまちづくり」「計画推進のために」など、多くの項目で十分に目標を達成することができました。

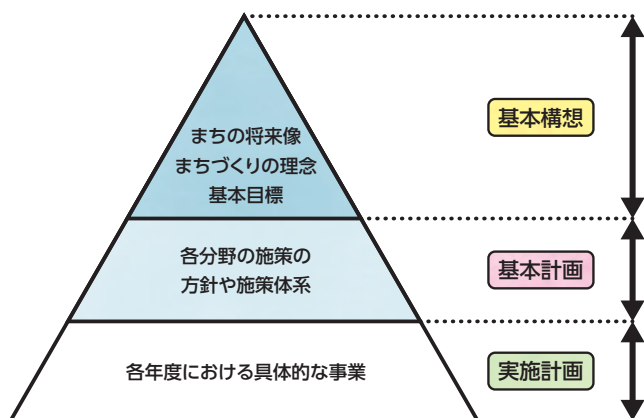
後期基本計画では急速に進展する人口減少や少子高齢化、新型

コロナウイルスによる新たな生活様式を踏まえた市民の安全・安心な暮らしの確保、近年農業等にも影響を及ぼしている地球温暖化などの環境問題、情報通信技術の発展・普及など、社会情勢の大きな変化に対応しつつ、本市の地域特性や多様化する市民ニーズを的確に把握して内容に取り込み、計画を策定しました。

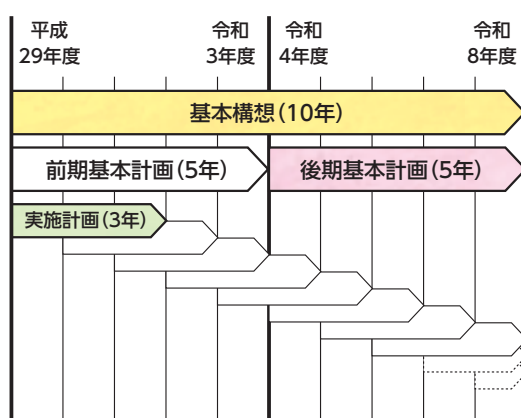
引き続き市民の皆さんとともに持続可能で自立したまちを目指していきます。



計画の構成と期間



■第6次総合計画における基本構想・基本計画・実施計画の位置付け



■第6次総合計画における計画期間

①基本構想(長期ビジョン)

市民との協働を基本として、本市の特性や今後の課題などを踏まえながら、本市が目指す将来像とまちづくりの理念を示し、それを実現するために必要な基本目標を明らかにするもの。

◆期間…平成29年度～令和8年度(10年間)

②基本計画(中期ビジョン)

基本構想で定められた基本目標を実現するための基本的な計画と施策を、総合的・体系的に示すもの。

◆期間…令和4年度～令和8年度(後期基本計画期間)(5年間)

③実施計画

基本計画に掲げる施策を、効果的に実施するための具体的な施策や事業を示すもの。

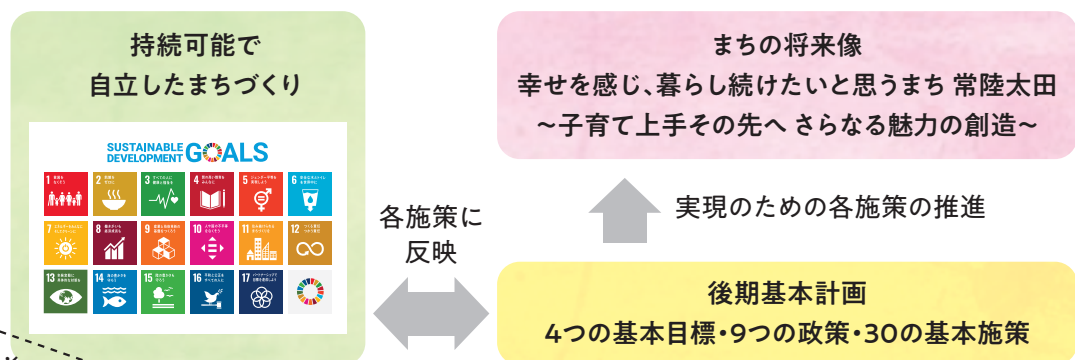
◆期間…3カ年計画(毎年度見直しを行う)

後期基本計画におけるSDGsの位置づけ

後期基本計画は、2016年12月に国が定めた「持続可能な開発目標(SDGs)実施指針」を反映した計画となっています。SDGsは2015年に国連で採択された国際社会共通の目標で、【貧困】【飢餓】【保険】【教育】【ジェンダー】【水・衛生】【エネルギー】【経済成長と雇用】【インフラ・産業・イノベーション】【不平等】【持続可能な都市】【持続可能な消費と生産】【気候変動】【海洋資源】【陸上資源】【平和】【実施手段】の17項目にまとめられています。例えば、【エネルギー】では自治体による公共施設での率先した省エネの推進や、市民が省エネ対策を推進する際の補助の取組みなどが挙げられます。

実施指針の中で、国は各自治体に対し、各種計画や戦略、方針の策定等にSDGsの要素を最大限反映することを奨励しています。本市においても、持続可能で自立したまちづくりに向け、後期基本計画の各施策分野にSDGsの目指す17の目標を関連

付けて各施策に反映させ、総合計画とSDGsを一体的に推進していくとしています。



以上を踏まえた本市の基本施策は大きく3つの目標に分類できます。

次のページへ

基本目標①

安心して働くことのできる 仕事の場づくり



政策

① 産業振興と新たな雇用創出による 仕事の場づくり

だれもが安心して働くことのできる仕事の場の確保は、定住人口の維持や増加には欠かせません。地域内経済の循環と活性化を図り、暮らし続けられる「持続可能なまちづくり」を実現します。それには、『東部土地区画整理事業用地への企業誘致』『新たな働き方を見据えたデジタル環境の整備』『農林業の担い手育成』『特産品の開発&販路拡大』『地域資源を活かした観光振興』などに注力する必要があります。これにより雇用の創出と安定化、雇用環境整備を推進します。



基本目標②

夢を育み健やかに生きる ひとづくり



政策

- ① 安心して子育てのできる環境づくり
- ② 郷土を愛し未来を拓くひとづくり
- ③ 夢と生きがいをもって活躍するひとづくり
- ④ 健やかに生きるひとづくり

安心して子育てができるように、地域ぐるみで子育てができるまちづくりを進めます。また、未来を担う子どもたちが将来に夢や希望を持ち、その実現に向かって学ぶことのできる環境づくりを進めるとともに生涯にわたる社会参加や文化的活動、スポーツ活動ができる機会を創出します。新総合体育館の整備を進めるとともに市民の誰もが健康で安心して暮らせるよう、世代に合った健康づくりの推進、切れ目のない福祉サービスの充実と、まち全体での地域共生社会の実現に向けた取組みを促進します。



基本目標③

暮らしやすく楽しむことのできるまちづくり



- 政策**
- ① 安全・安心なまちづくり
 - ② 快適で魅力のあるまちづくり
 - ③ 地域の特性を活かしたコミュニティづくり

移住・定住施策の促進や地域の特性を活かした新たなコミュニティづくりを推進します。また、市民の暮らしの基本となる安全・安心で暮らしやすいまちづくりを進めるため、災害対策や犯罪防止への取組み、および安全な交通システムや緊急医療体制の充実を図ります。豊かで利便性の高い快適な生活が送れるよう、市街地や道路、公共交通をはじめとした社会基盤の整備に加え、近年、全国的にも問題になっている上下水道の基盤環境の充実も促進。本市の恵まれた自然や歴史・文化といった地域資源の維持や、再生可能エネルギーの活性促進などの地球温暖化への取組み等も推進します。



最後に、これら計画を推進するための「行政力改革」も進めていきます。情報の共有や広域連携、産学官連携の強化、デジタル化の推進、自主性・自立性の高い財政運営をテーマに掲げました。

基本目標③
暮らしやすく
楽しむことのできるまちづくり

基本目標①
安心して
働くことのできる
仕事場の場づくり

基本目標②
夢を育み
健やかに生きる
ひとづくり

基本目標①～③は
相互に関連するものと
考えています。



詳しくは本市が発行する「常陸太田市第6次総合計画後期基本計画」に数値目標とともに掲載しています。
この計画を基に本市は、子育て上手その先へ：さらなる魅力の創造を行っていきます。





おめでとうございます



統計功労者表彰

永年にわたり国勢調査や経済センサス活動調査等に従事された統計調査員の次の皆さんが、統計功労者として総務大臣から表彰されました。

會澤修さん(上利員町)

井上佳之さん(下高倉町)

高星正三さん(小中町)

安博子さん(常福地町)



(上段)左から市長、安さん、會澤さん (下段)左から高星さん、井上さん

また、永年にわたり統計調査に従事された統計調査員の次の皆さんが、統計功労者として県知事および県統計協会総裁から表彰されました。

【県知事表彰】

大曾根洋子さん(上河合町)

菊池通昌さん(小妻町)

【県統計協会総裁表彰】

安島丈雄さん(大町)

宇野一さん(栗原町)

金田和晃さん(上宮河内町)

小林信昭さん(大町)

佐藤健さん(里川町)

澤田啓介さん(金井町)

篠原勝幸さん(谷河原町)

高塚文子さん(栄町)

中野正さん(折橋町)

武藤貞さん(春友町)



TOPICS

手作りのつるし飾りを展示

パルティホールのロビーにおいて、手芸サークル「布遊」のつるし飾りを展示しています。テーマは「里川の流れと花」で、精巧につくられた花や里川を遡上するアユ、今年の干支である寅など2千点以上の作品が飾られています。展示は3月25日(金)までです。





上利員町でエコミュージアム活動に取り組みました

1月28日、上利員町において、「こんな地域にしたい」という想いを詰め込んだ「将来構想マップ」を作成しました。同町会では、令和元年10月にお宝さがし（地域探索）に取り組み、今回の将来構想マップの作成にあたっては、お宝さがしで見つけた地域のお宝を参考に「こんな上利員町にしたい」という皆さんの意見を集めました。将来構想マップには、意見を記入したカードを貼り付け、実現させるために取り組む行動計画を記入しました。



高貴町に総合案内板が設置されました

1月30日、高貴町において地域のお宝（地域資源）がまとまった総合案内板が高貴農村集落センターに設置されました。設置した案内板には、同町が平成30年からエコミュージアム活動に取り組む、地元の方々が見つけたさまざまな見どころや地質情報がまとめられています。ぜひご覧いただき、高貴町を散策してみてください。



久米幼稚園で避難訓練

2月22日、久米幼稚園で避難訓練を行いました。幼稚園隣の野球場から出火したという想定のもと、市消防本部職員に避難の方法を教わりながら、園児たちが園舎の外へ避難しました。また、煙体験や消火器を使った消火訓練も実施。火事の際はハンカチで口と鼻をおさえて低い姿勢で逃げるなど、火事から自分の身を守る方法を学びました。





常陸太田で
おいしいぶどうを
つくります!

「ナチュラルチーズ
職人」を目指します!

なし農家として
活躍します!

はしもと ひろき
橋本大輝さん

《活動開始》
令和2年11月~
《活動ミッション》
移住定住に関すること
(空き家)

まつばら かつゆき
松原勝之さん

《活動開始》
令和3年4月~
《活動ミッション》
農業の担い手
(ぶどう栽培)

かめい
亀井わかなさん

《活動開始》
令和3年4月~
《活動ミッション》
農業の担い手
ナチュラルチーズ
職人

たわらや こうき
俵谷昂樹さん

《活動開始》
令和3年4月~
《活動ミッション》
農業の担い手
(なし栽培)

はしもと
橋本あゆみさん

《活動開始》
令和2年11月~
《活動ミッション》
移住定住に関すること
(子育て支援)

特集2

頼もしすぎ!

ひと・まちを動かすチカラ

地域おこし協力隊

本市では平成23年度から地域おこし協力隊を受け入れています。「移住・定住推進」「特産品の開発」「農業の担い手」など、各々のミッションを通じて市の活性化を目指し、地域の皆さんと連携しながら活躍しています。

令和4年2月現在、本市では心強い5人の隊員が活動中。今回は、令和3年4月に協力隊として委嘱された亀井さん、松原さん、俵谷さんにお話を伺いました。

* 橋本大輝さん・あゆみさんについては、広報ひたちおた令和3年2月号で紹介していますのでご覧ください。

☎ 少子化・人口減少対策課(内線314・346)

地域おこし協力隊とは

地域おこし協力隊は、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取り組みです。隊員は各自自治体の委嘱を受け、任期はおおむね1年以上、3年未満です。
(総務省ホームページより)

地域おこし協力隊の紹介(市ホームページ) ▶



ナチュラルチーズ職人!

Mission!

ミッション

亀井わかなさん(日立市出身)

市の新たな特産品として注目を浴びているナチュラルチーズ。酪農がさかんな里美地区の新鮮な生乳を使用した風味豊かなチーズは、お土産はもちろん市内外の飲食店でも取り扱われています。そんなチーズの製造を担う若き職人として、工房で奮闘している亀井さん。県立農業大学校(茨城町)を卒業してすぐに協力隊として着任しました。

「もともと料理が大好きで、農産加工の分野に興味があったんです。卒業後の進路を考える中で募集を知って、これだ!と応募を決めました。チーズの製造は知識も経験もゼロからのチャレンジ。大変なこともありますが、達成感もあり充実しています」と亀井さん。チーズづくりは、衛生管理はもちろん温度や時間など細やかな見極めと対応力が要求されるデリケートな仕事。製造品目や製造量は日によって異なりますが、多い時には一日中作りっぱなしになることも。そんな中で、亀井さんは人との関わりに支えられているといます。「印象的だったのは、里美がかしまつりでチーズを販売した日。立ち寄った小学生が、これ給食で出たよ!」と言ってくれたんです。それがすごく嬉しかったですね!」

また、工房長の平賀さんは同じ協力隊の先輩。「平賀さんは、とにかく優しく優しいです!いつも助けられています。全国のチーズ工房で研修されているので、いろいろなところのお話も教えてくれたり!今はまだ外部研修ができていないのですが、いずれは他のところでも学んでたくさん技術を習得したいです」と、今後の目標についてもしっかりと見据えています。ひたちおたチーズの評判を更に遠くまで届ける職人を目指し、着実に前へと進んでいます。



ひたちおたチーズ工房の製品ラインナップ。亀井さんのイチ押しはセミハードタイプの熟成チーズ・さとやま。ミルクで濃厚な旨味を堪能できます。



得意料理は「にんにくがガツンと効いたモツ煮」。学生時代には、自分の作った野菜で料理も楽しんでたそう。チーズ料理も提案してくれそうです♪

Message

メッセージ



(左) 平賀さん

(右) 亀井さん

From 平賀優子さん(協力隊卒業生、ひたちおたチーズ工房・工房長)

亀井さんは大変な努力家で、黙々と仕事をする、笑顔の素敵な女性です。周囲の人にも気遣いを欠かさず、常に向上心を持って仕事に取り組んでいます。お弁当のバラエティ豊かなおにぎりが美味しそうなのもチャームポイントです。

チーズ作りは、淡々とした積み重ねが大切な重労働ですが、毎日頑張る亀井さんの姿を見て、立派だと思っています。そのような若者が地域おこし協力隊として、工房、そして市の一員に加わってくれた事がとても嬉しいです。これからも頑張って立派なチーズ職人を目指してほしいです!

農業の担い手!

ぶどう栽培

Mission!
ミッション

松原勝之さん(千葉県市原市出身)

地域おこし協力隊は、若手からベテランまで世代を問わず、さまざまなキャリアやバックグラウンドを持つ人が活躍しています。市を代表する特産品のぶどうを栽培する担い手として着任した松原さんは、東京都庁で約6年間働いていた元公務員。同じく都庁に勤務していた奥様と共に職を辞し、常陸太田市に移住してきました。

「働くうちに自分で起業したいと考えるようになり、その中でも農業に興味を持ちました。そんな時、旅行に出かけた先で美味しいぶどうに出会ったことをきっかけに『ぶどう農家になりたい!』って思ったんです。産地と都内との価格差を考えるとそこにビジネスチャンスも見出せるんじゃないかって。いろいろ調べる中で、常陸太田市が唯一ぶどう農家として独立を目指す協力隊を募集していたので迷わず応募したんです!」と朗らかに笑う松原さん。着任後は馬場町の本多ぶどう園で栽培技術等研修を受けながら、耕作放棄地を借り受け独立を見据えて着々と準備を進めています。

「前職ではずっと事務仕事だったのではじめは体力的にもキツく、またぶどうは手がかかるともありこれは大変だな」と思いました。一番最初にやった、雨よけハウスのビニール張りの仕事が特に印象的。近所の皆さんと一緒に協働して、地域でぶどうを育てているんだって仲間意識を実感しました。ぶどう部会の皆さんにもとても助けられています。独立し成功するには栽培だけでなく販路や収入の確保なども重要ですが、そのビジョンもすでに描いている松原さん。「ぶどうは食用だけでなく、樹液から化粧水も作れるんです。6次化して通年販売できる商品を開発するなど、稼げる農家を目指します!」と意気込む、頼れる担い手です。



常陸太田特産の種あり巨峰を食べて「甘さとコクがすごく衝撃的だった」と松原さん。本多ぶどう園では約30品種を栽培しますが、中でも巨峰が一番!



シーズンオフの2月は剪定作業。師匠と仰ぐ本多孝文さんとも気持ちが合っているといい、「気合と根性!」で日々精力的に活動しています。

Message
メッセージ



From 松原愛さん(奥様)

地域おこし協力隊として常陸太田市に移住してぶどう農家になると聞いて、反対する気持ちは全くありませんでした。一緒にここに移り住んで、ゆったり羽根を伸ばせる大自然の中だけれど生活に必要なものは揃っている、ちょうどいい場所だと思いました。遊ぶところは、驚くほど何もないんですが(笑)

私も本多ぶどう園でパートスタッフとして一緒にお手伝いしています。ふたりで精一杯頑張って農家として独立した時には、ぜひ夫の作る美味しいぶどうを食べにいらしてください!

農業の担い手!

なし栽培

Mission!
ミッション

俵谷昂樹さん(東京都日野市出身)

なし栽培の担い手にも、一人の若き隊員が加わりました。弱冠22歳の俵谷さんは、なんと小学生になる頃には農業やガーデニングに興味を抱いていたのだそう。年を重ねてもその気持ちは変わらず、農業を志し県立農業大学校へ進学した俵谷さんは授業の一環で常陸太田市のなし農家と出会い、協力隊に応募したといいます。

まさしく自分が目指していた姿ですごく良いなって感銘を受けて、ここで独立を目指そうと決めました。美味しい！って声と、喜んでくれる顔がモチベーションに繋がるんです」と熱く語る俵谷さん。着任後も、(虎)庄司観光梨園で研修を実施。実際に農家として実践すると学生時代の研修とは違うことも多く「現場はスピード勝負。丁寧だけではダメで、素早くテキパキやらないといけない。実質、イチから学び直した」と苦労もあつたそうですが、やる気に満ち前向きに取り組む俵谷さんの姿は周りにも良い刺激となっ

ています。同じく協力隊の卒業生で、「果樹園せいよう」の園主である堀口さんも俵谷さんを応援。「堀口さんからは、栽培技術だけでなく経営や心構えなどいろいろな面で学ばせていただいています。仕事としてではなく、ライフスタイルのひとつとして農業を選択する：そんな気持ちで、楽しみながらやれる形を実現したい。もちろん、ジョイント栽培など新しいやり方も積極的に取り入れながら、視野を広げて取り組んでいきます」。今後、常陸太田のなし農家を牽引する期待の星です。



数ある作物の中からなしを選んだ理由は「一番好きな果物だから」と俵谷さん。中でも、茨城県オリジナル品種の恵水の味がおいしいと太鼓判。



直売のスタイルに加え、親身になって教えてくれる農家の温かさや優しさ、自然の豊かさに惹かれたそう。「来てよかったです、ずっと定住したい!」

Message
メッセージ



From 堀口剛さん(協力隊卒業生、果樹園せいよう・園主)

俵谷くんは、とにかく人柄が良い。僕の子どもたちとよく一緒に遊んでくれたりね。技術や理論は教えられても、人柄は教えられないですから。それにやる気もすごい、僕が同じ年の頃とは比べ物にならないぐらい。そんな見どころある担い手が来てくれたのが嬉しいですね。だから、僕に教えられることは全部教えたいと思っています。先輩方が築いてきた経験則と、理論や新しい技術。その両方を学んでレベルの高い仕事をしてほしい。彼をきっかけに、農業の担い手がどんどん続いてくれると期待しています。